



DAMANHUR

ダマヌール日本ニュースレター

ぽぽろ



POPOLO

春号

《 第58 春号 》

発行 ダマヌール日本
発行日 2026年3月21日
<https://www.damanhur.jp>

メディテーションの学校



メディテーションの学校へようこそ!

私たちオロヴェリィのメンバーは、全員がダマヌールの「メディテーションの学校」の生徒です。メディテーションの学校とは何でしょうか？何を学ぶのでしょうか？

はじめに

あなたは、今のこの世界の現状に満足しているでしょうか？人間同士の間には戦争があり、人間の活動による環境破壊の影響で数多くの動植物が絶滅の危機に瀕していたり、過酷な環境で生きることを余儀なくされています。

あなたは今の自分に満足しているのでしょうか？それとも、もっと違う自分、違う人生を歩んでいきたいのでしょうか？

メディテーションとは

一般的に「メディテーション」は「瞑想」と翻訳され、静かに座って自分の内面と向き合うことをするのか？と思われる方もいると思います。実は「メディテーション(イタリア語ではmeditazione)」

という言葉は、medit(考える)とazione(行動する)という言葉から成り、ダマヌールのメディテーションの学校では、レッスンで学んだ知識を咀嚼して、いかに日々の生活の中で行動するかが求められます。

レッスンでは「なぜ?」と疑問を持つことが推奨されます。質問・疑問は自ら勉強することにより生まれるものです。そして、「なぜ?」という質問が新しい知識の扉を開くのです。メディテーションの学校で禁じられていることは、「遅刻をしない」「たばこを吸わない」ことだけです。

知識を学ぶ

かつて、ダマヌールの創立者たちは共通の疑問を持っていました。それは「私はなぜ生まれてきたのか」「何のために生きているのか」「死んだらどうなるのか」「神は存在するか」「宇宙はどのように創造されたのか」等々、誰もが一度は抱くであろう普遍的な疑問です。創立者たちはスピリチュアルリーダーだったファルコから学び、研究や検証を重ねてさまざまな疑問を解明してきました。それらは誰でも参加できる一般向けのセミナーでも学ぶことができます。

秘教的知識の学校

メディテーションの学校では地球上で7万5千年以上受け継がれてきた「秘教的知識」を学びます。かつては選ばれた少数の人だけが学ぶことができた知識です。なぜなら、人間の再覚醒に関する知識が含まれていたからです。ファルコは、この時代に秘教的知識の共有を始めました。選ばれた人ではなく、自ら望み、選択したすべての人に秘教的知識を学ぶ可能性が開かれたのです。

メディテーションの学校では、一人ひとりに内在する神の部分を再び目覚めさせることを目指します。私たち人間は、この物質の宇宙を創造した起源的な神の一部(かけら)を宿した存在であり、物質の世界の活動で精神の世界に影響を及ぼすことができる種です。しかし、物質偏重の社会の中で、私たちは自分の中に神の一部を持っていることさえ忘れてしまっています。

知識の道、変容の道

メディテーションの学校は「自分の変容に基づく精神的探究の道」です。あなたの人生は、あなたの選択とそれに基づいた行動によって実現し変化していきます。「自分が変われば世界が変わる」と言われているように、今までとは異なる視点を持ち、無意識に言ったり、行動してしまうパターンから抜け出せば、より広い視野で物事を捉えることができます。長所や短所を含め、自分自身を良く知ることが大切ですし、他の人から見える自分を知ることにも変容や成長につながります。これらは一日24時間を通して継続的に取り組むことであり、あなたが望むなら人生をかけて続けることができます。



ダマヌールでは年間を通して行う大きな儀式があります。自然のリズムにつながった夏至と冬至、春分と秋分の儀式や、故人追悼の儀式です。また日常的にもさまざまな儀式を行います。これらについても学んで理解を深めていきます。



グループであること

自分自身の変容や再覚醒のためには、自分一人で学んだり努力するだけでは不十分です。同じ哲学や価値観を共有し、共通の夢に向かって進む仲間が必要です。自分とは異なる考え方、感じ方、行動パターンを持つ他者と共同していくことは楽なことではないかもしれませんが。助け合いや協力によって安心や感謝を感じることもあれば、誤解やすれ違い、理解不足のために、対立や衝突が生まれることもあるでしょう。しかし、そのような摩擦を経ることで、個々が持っているエゴの部分がそぎ落とされ、ゴツゴツとした石の角が取れて丸い滑らかな石になるように、一人ひとりが神聖さに至ることが可能になります。

また、多様な個性を持った人たちが共通の目的を持って共同することは、一人で頑張ったり、自分と似ていて気が合う少人数の人だけで試みるのでは実現できないような、大きな成果を生み出すことができます。

さらには、人間のグループ内の共同だけでなく、人間以外のさまざまな命…動物、植物、自然の精霊、神々なども共同していくことで、永続可能な希望ある未来を創造していきます。

入学へのお誘い

自分の人生を変えたい、世界の状況を変えたい、秘教的な知識を学びたい、共通の夢や理想を持つ仲間に出会いたい…そんなあなたへ

私たちと一緒にダマヌールのメディテーションの学校で学びませんか？

メディテーションの学校に興味を持たれた方は、ダマヌールの哲学、思想を理解していただくために、ダマヌール日本が主催している2日間のセミナーに参加されることをお勧めします。

あなたの入学を歓迎いたします。

ご連絡をお待ちしております。

問 メールアドレス : mail@damanhur.jp

または、右QRコードのお問合せフォームから ➡



なぜメディテーションの学校に入ったのか

◇ ダマヌールとの出会いは、ちょうど10年前になります。横須賀から地元へ帰ってきた私は、仕事で連携していた船戸クリニックでのダマヌールセミナー初開催に申し込んだのが始まりでした。

その後、木の活性化に同行させてもらったり、ポポロに加入したり、その翌年には123Gのメンバーが集まりはじめ、メディテーションの学校のことを知りました。2021年の過去生の名古屋セミナーで再度リクエストを出しました。

夏になると「みんなが集まるから一緒に作業しないか？」と声がかかり、とりあえず待ち合わせ場所に行きました。そこで日本のテリトリーができたことを知りました。「本当に見つかったんだ！！」あの時の感動は今でもはっきりと覚えています。

メディテーションの学校に入ってまだ2年半ですが、色々なことがありました。が、それを通して強くなったのは分かります。日本にできたテリトリーを未来に繋ぐために、今度は新しい皆さんを迎えるために精進したいと思います。(エツコ)

◇ 悟ったと言われるマスターに会いに行ったり、色んな本を読んだり、若い頃から宇宙の真実みたいなことにとっても興味がありました。ダマヌールのコースを何度か受けているうちに、この道は本当のことを言っているが、ただコースを聞いて知識を集めてはいけないという思いが強くなりました。

その頃、ちょうどイタリアのダマヌール行きのツアーが開催され、参加することにしました。そのツアーで人類の神殿を訪れ、ダマヌールの聖なる森のダイヤモンドの木の前で皆で瞑想したときに「あ～私が帰ってきたかった場所はここだったんだ。」と感じました。それでも、当時幼稚園児と小学生の子どもを抱えていた私は果たして自分にメディテーションの学校が続けられるのだろうかという不安がありました。そのことをジュゴンさんに相談した時に、「あんたが、やるって決めたらやれるし、やれるやろうか大丈夫やろうかって心配してたらそういう出来事が起きるんや。」と言われメディテーションの学校に入る決心がついたのでした。(ヨシノ)

◇ 私は宗教や神話に興味がある読書好きな子どもでした。10代の時にアレイスター・クロウリー、今東光、オショー・ラジニーシの著作に出会い、20代で九星気学や易を学び、シンクロシティや方位の力を学んでいる最中、恩師からダマヌールという現実があると教えてもらいました。

メディテーションの学校に入るきっかけはこの出来事の後、2つ夢を見たことです。一つは亡くなった父が白い儀式用の衣服を着用し大きな勝利の加護をしてくれる夢。もう一つは、夢の中でダマヌールの人が見えて「あなたはダマヌール向きではないかもしれないが、今回を逃したらもうこられないでしょう。212の秘密を…」と話したミステリアスな夢。

それから飛行機に乗って関西へ飛び、「望むことを学ぶ」のセミナーに初めて参加しました。その日からダマヌールに魅了され、たくさんのセミナーに参加し、イタリアにも行きました。思いは日に日に強まり、インストラクターの勧めもあり、メディテーションの学校で深く学ぶことを決意しました。(イストリチェ)

◇ メディテーションの学校のことを知ったのは、ダマヌールに出会ってしばらく経ってからでした。最初にスピリチュアル物理学を学び、ダマヌールには私が知りたかった知識がすべてある、いろんなところで学んだ断片的な情報が、ここで整理され、統合されると感じたのです。

その後、もっと知りたい学びたいという望みが受け入れられて、日本でもメディテーションの学校の扉が開くことになりました。インターネット上の英語のテキストで学ぶことから始めて、やがて日本で直接フェニーチェからメディテーションのレッスンを受けることができるようになり、今日へと至ります。

最初のころはまだ子どもたちも幼くてしんどいこともありましたが、仲間たちとセミナーの運営をしたり、ニューズレターを作ったり、温泉に行ったり、木の活性化に出かけたり、菰野にコミュニティーができてからは芸術的な活動も広がり、普通では考えられないようなユニークで濃い体験を重ねています。(アヴェルラ)

メディテーションの学校のお申込み方法

リクエスト用紙がありますので、必要事項を記入して顔写真を添えて提出していただきます。詳細はお問合せください。

問 メールアドレス : mail@damanhur.jp

または、右QRコードのお問合せフォームから →





イルカショー禁止と水族館の役割

前号のニューズレター57号では、橋の形の動物をお伝えしました。橋の形の動物は、物質の世界と精神の世界をつなぎ、地球の精神的進化に貢献することができます。

現在、代表として地球の精神的進化を担っているのは人類ですが、橋の形の動物たちは私たち人類同様に知性、知覚、社会性、言語を持っています。古代の人類が偉大で調和的だった時代には、お互いに協力しあって精神的進化を目指していた仲間です。

動物福祉の視点からイルカショーや飼育禁止を決める国が増えているのは世界的な流れです。2013年、インドではクジラ目(イルカを含む)の動物を「人格を有する存在」と認め飼育を禁止。スイスでは水族館や娯楽目的のイルカの飼育禁止を可決。2019年、カナダでイルカショーを含む娯楽目的での鯨類の利用や新たな捕獲に最大で20万カナダドル(約2100万円)の罰金が課される法律が制定されました。この年には、日本の和歌山県太地町のイルカ追い込み漁の映画が公開され、漁の残酷さに批判が続出し、動物福祉や救済に大きな影響を与えました。背景にあるのは、人間の娯楽や興味本位のために野生動物を捕獲し、自然とは程遠い環境に閉じ込めて飼育することは不適切であるという考え方です。

太地町の追い込み漁では、育児をするイルカの群れを襲い、生体販売用に若いメスがいけどりにされます。小さな生簀いけすで出荷待ちのあいだの訓練は「死んだ魚を食べる訓練」だと言われています。野生のイルカは生きた魚を食べますが、捕獲された後では冷凍の魚やイカの切り身をもらいます。最初は嫌がって食べません。するとイルカの口を手でこじ開け、喉の奥に入れて慣れさせます。冷

凍の魚は生きた魚に比べて水分量が少ないので、イルカの口から胃に管を通して水を流し入れるそうです。そして、それは水族館にいる間も続きます。

水族館に行くと、芸をしたら餌がもらえることを教えられます。餌が欲しいイルカは、トレーナーが来るとジャンプしてアピールするようになります。狭いプールの中では何頭も飼われていて、餌の奪いあい、ストレスからの喧嘩もあり、知能が高いため精神疾患になりやすいようです。

水産省はイルカ漁は日本の伝統文化と言いますが、貿易統計データによると2019年には8億円からの取引があったそうでビジネスであることがわかります。

一方、日本では東京の品川水族館が施設の老朽化などのリニューアルにともない、完成後にはイルカの展示とイルカショーを終了すると発表しました。その理由は、リニューアルの工事費や飼育にかかる費用の上昇も挙げられています。また、同じ電車の路線上に複数の水族館があって競合しています。

しかし、その近隣にある商業目的の水族館には驚きました。多彩な演出で生きものの魅力を伝える「TOKYO最先端エンターテインメント」がコンセプトで、建物などの立体的な物体をスクリーンにして映像を投影する技術を用いることをアピールしています。夜のイルカショーには、光・音楽・水のアートとイルカたちが共演すると説明され、「イルカたちが祝福するドルフィンウェディング」はイルカショーの後に挙式を行います。日本は人口あたりの水族館の数が世界一多い国ですが、世界の流れの逆をいく施設です。

本来、水族館の役割は何か。どんな形が理想なのか。橋の形の動物たちへの尊厳も含めて、今一度、共に考えてみませんか？

ドルフィン・プロジェクト

みなさんは1960年代に人気だったアメリカのテレビドラマ、「わんぱくフリッパー」をご存知でしょうか？ 5頭のイルカがフリッパーとして出演したそうですが、調教師として有名なのはリック・オバリー氏です。彼は撮影が終わると、5頭のイルカたちが次々と死んでいくことを知りました。ぞんざいに扱われたためでした。彼が調教したフリッパー役の主要なイルカのキャシーが彼の腕の中で亡くなった際には、彼は「自殺した。自ら息を止めた。」と主張したそうです。

これを機にリック氏はイルカのトレーナーを辞め、

イルカを自然に返す「ドルフィン・プロジェクト」を発足させます。1970年のことです。このプロジェクトは、これまでの何頭ものイルカをリハビリして海に戻しています。2019年には引退したイルカの終生の居場所として、世界初のサンクチュアリをバリ(インドネシア)に創るために尽力しました。

ニューズレター57号の他、
バックナンバーがご覧いただけます。
下記 URL または 右QR からどうぞ！



<https://damanhur.jp/ニューズレターぼぼろ/>

オロヴェリイヒーリングセンター

～2025年10月、三重県の菰野町にダマヌールの健康施設がオープンしました～

このヒーリングセンターでは、ダマヌールで行われている自然医学の筆頭であるプラノセラピーを基本とします。

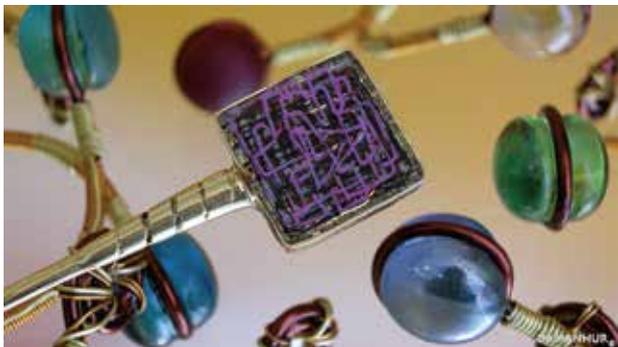
プラノセラピーは古代からあり、肉体・マインド・魂といった人間の存在全体に同時に働きかけることができる唯一のヒーリングです。

またビューティのプラノセラピーは、一人ひとりが内に秘めている本来の美しさをプラーナの働きで表面に表れるようにします。

そしてセルフティックヒーリングは、宇宙の微妙なエネルギーを集めて方向づけるダマヌール独自のセルフ学の研究から生まれた「スティロセルフ」や「ロズリッティエーノ」を用い、肉体に働きかけます。

ダマヌールのヒーリング プラノセラピー

ダマヌールでは、ヒーリングは1975年の創立当初から主要な研究分野の一つです。プラノセラピーで使われるプラーナは、宇宙の源泉からやってくる生命エネルギーで繊細で知性を持ちます。肉体・マインド・魂の全てに良い影響を及ぼし、特にバランスの崩れている部分に集中して流れ、全体の調和を取り戻すように働きます。さらにプラーナは、私たちの人生において変化を促進する触媒のようにも働きます。プラノセラピーを定期的に受けることで、シンクロシティをもたらし、出会いや出来事とおして自身の価値観を変えるような変化や成長を助けます。細胞の一つ一つは考えることができ、賢さと情報を持っていますから、細胞自体がポジティブな変化を促すこともあります。



セルフティックヒーリングは肉体の局部に作用します。ダマヌールで「スティロセルフ」を最初に作ったときに、医学書の情報、解剖学、生理学を含めた人間の肉体の正常な機能や構造についてのあらゆる情報をスティロセルフに移入しました。

不具合がある場所にスティロセルフを用いると、

スティロセルフはバランスを崩している部位に、本来あるべき正しい情報を上書きし、その情報に基づいて、局部の痛みや腫れ、不調和の改善を促します。

一方、「ロズリッティエーノ」は局部に一時的にエネルギーの流れを加えます。上書きされた局部の再生や症状の改善にはエネルギーが必要であるため、セルフティックヒーリングにはプラノセラピーを併用することが重要です。

ダマヌールのヒーリングと 一般のエネルギーヒーリングの違い

ダマヌールのヒーリングと一般のヒーリングとの違いは、セルフ学のテクノロジーを使ってヒーリングを行う場所やヒーラーに蓄積する否定的なエネルギーを定期的に放出し、ヒーラーがニュートラルな状態に戻ることを義務付けている点です。ですから、ヒーラーは常に安全でパワフルなヒーリングを提供することができます。



人生において健康は大切ですが、病気の体験もまた貴重なものです。病気の原因は遺伝的なものであったり、その人の生きている環境であったり、感じ方や考え方の差異であったり、魂の体験を通して成長する課題であったりと一人ひとりが異なりますが、どの人も何かしら変わる必要があり、また、ポジティブに生きる病気の体験は人生をより豊かにしてくれます。病気の予防や改善、健康の維持・増進、精神的成長などをもたらすプラノセラピーは人生に寄り添ってくれる力強いサポートになります。

プラノセラピーは、オロヴェリイや各地で受けられます。体験会も開催しています。

問 メールアドレス : mail@damanhur.jp

または、右QRコードのお問合せフォームから ➡



オロヴェリイの畑

ダマヌールでは持続可能な生き方を実現するために、初期の頃からコミュニティの中で農作物や手工芸製品を作る供給サイクルを実現してきました。

コミュニティの中で自給自足を実現することは、その土地と自然と人間が調和するための大切な繋がりを作ることであり、その土地や風土にあ



ったものを私たち自身が消費することはバランスの取れたサイクルと言えます。

私たちがこの場所に来た当初は、土地の至る所にたくさんのゴミが埋められていました。私たちはこの状況を現在の地球と見立てて、ゴミを取り除き、再生を試みました。

そしてオロヴェリイの敷地内にある多くの木々の力を借りました。秋に豊かに降り積もる「落ち葉」から堆肥を作り、土壌の改良を経て3年目を迎えました。去年はモロヘイヤやツルムラサキ、里芋、さつまいも、オクラなどが豊作でした。狭いながらもダマヌールのエネルギーに繋がった場所を再生し、そこで収穫されたもので滋養されることは私たちにとって特別なことです。

今年は春に向けて冬の間にコンテナを作り、その中にたくさんの落ち葉を入れ込みました。どんな作物を植えようかと春が待ち遠しく感じます。(トモコ)

陸 稲

陸稲は「おかぼ」や「りくとう」と呼ばれ、畑で作るお米です。病気などに強く、育てる手間がかからないという特徴があります。私たちは現在、三重県菰野町でコミュニティ生活をスタートさせています。地域の方から畑を借りられることになり、ダマヌールのオリオカルドプロジェクトである自給自足をするべく、2025年から主食のお米の栽培に挑戦しました。陸稲は苗を移植するのではなく、種を直播していきます。私たちはそれぞれ、草を取り土を起こす人、整地する人、種穴を空ける人、種を蒔く人など、皆で役割を分担して、1つの臓器として、手と口を動かして、大いに楽しく働きました。

今年の夏は猛暑で、本当に雨が降らずに、陸稲は発育が遅れました。その上、雑草の勢いはとどまることを知らず、草取りと水やりの作業に大変苦労しました。一心に元気に育ってほしい！という思いから、それだけで私たちは血眼になって稲を救おうと奮闘したのです。

8月にはホロジアデのイベントで9つのグループに分かれ、鳥対策としてカカシを製作し設置し、

人気投票を開催して競い合いました。通る地域の人や子供たちから、応援されたり、励まされたり、喝采をもらったりして、私達はとても勇気づけられました。

10月から徐々に雨が降り、何とか緑色の実を付け始めた稲たちは11月頃から穂が黒く変色してきました。カメムシやメイチュウ、いもち病もあるかもしれません。

近くの幼稚園の園長先生に脱穀機等を貸していただき、収穫した陸稲の脱穀、粃摺り等をさせていただきました。収穫はとでも少なくなりましたが、貴重なお米を皆で少しずついただきました。ととても甘くもちもちとした食感で美味しかったです。何よりも私たちの心血を注いだ挑戦と、一生懸命陸稲に通ったこの夏の思い出は、この時間のプランにしっかりと密度を付け始めたと思います。

そして2026年も土地や栽培方法に工夫をプラスし、発展していけるようにさらに挑戦していこうと思います。(トキ)





Dugongo Canfora
ジュゴン・クスノキ

ダマヌール日本で、通訳及びインストラクターとして活躍していたジュゴン・クスノキが2025年10月30日に旅立ちました。以前より闘病中でしたが、オロヴェリイの新館に移り住み懸命に治療に取り組んでおりました。私たちにとってジュゴンと過ごした時間はかけがえのないものであり、深い感謝の気持ちとともにその存在の大きさを感じています。

ジュゴンと私たちが描いた夢を実現すべく、ダマヌール日本はさらに活動を発展させていく所存です。

今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

※ジュゴン・クスノキは日本語読みで、イタリア語ではDugongo Canforaになります。

セミナー・イベントスケジュール 2026年4月以降

フェニーチェ 2日間セミナー オロヴェリイセミナーールームにて

4月「スピリチュアル物理学 基礎編」(予定)

開催時間：10:00～18:00 予定

5月「植物の叡智 宇宙における植物の重要な役割と人類との絆」(予定)

会場：オロヴェリイセミナーールーム

参加費：40,000円

★テーマおよび開催日を只今、調整中。決まり次第、SNSを通じてご案内します。

フェニーチェのグループヒーリング

グループで受けるプラノセラピーです。

セミナー終了後。要予約。料金別途(¥6,000)

個人で受ける以上にパワフル！

要予約

ダマヌールを知る会 in Orovelj

プラノセラピー体験会も同時開催！

オロヴェリイは、ダマヌール公認のコミュニティーです。

開催予定日：3月14日(土)

この会では、螺旋の体験、セルフイックペイティングや

4月26日(日)

セルフイックのご紹介、また敷地内もご案内します。

*毎月行っています。日程が決まり次第、ご案内します。

春の一日、オロヴェリイでダマヌールを感じてください。

場所：いずれも 10:00～12:00

ダマヌールのヒーリング“プラノセラピー”も是非どうぞ！

参加費：2,000円 (ヒーリングは別途料金)

要予約

ダマヌールの儀式 in Orovelj

春分：3月22日(日) 夏至：6月21日(日) 秋分：9月20日(日) 冬至：12月20日(日)

ダマヌールでは、毎年、春分・夏至・秋分・冬至といった季節の節目に、大きな儀式を行っています。

大自然のエネルギーが変化する時に行う儀式は、あなたの魂を進化させます。

日本でも、オロヴェリイでイタリアのダマヌールと同様の儀式を行います。

問 セミナー・イベントいずれも お問合せ・お申込みは

メールアドレス：mail@damanhur.jp

または、右QRコードのお問合せフォームをご利用ください。➡



ファルコの金言

哲学者でヒーラー、ダマヌールの創立者である
ファルコの言葉を紹介します。

いかなる利益も栄光も財産ももたらさない理想のために、全身全霊で
戦う者たちは自由である。なぜなら彼らはこの世において、非常に強く
完全であるため、それらを必要としないからである。

ファルコ・タラッサコ
(オベルト・アイラウディ 1950-2013)

オロヴェリイの新館が完成！

2025年10月、ついに私たちの念願であった新館が完成しました。

日本にダマヌールのコミュニティーを実現する夢を25年以上にわたって持ち続け、この地に巡り会ったのは、2021年10月でした。

そして2023年6月、『金の友情』を意味するオロヴェリイは、ダマヌールの5番目の公式なコミュニティーとして承認されました。

ダマヌールは、1975年に北イタリアに誕生したコミュニティーの連合体です。2005年には国連から「持続可能な社会モデル」として表彰され、現在ではヨーロッパで一番大きなコミュニティーの連合体となっています。

ダマヌールのコミュニティーでは、一人ひとりの違いを賞賛し、お互いが助け合いながら各自の個性を伸ばし、日常生活の中でエゴを削ぎ落とし、人間本来の集合体としての意識の拡大を実現しながら精神的に進化することを目指す社会形態を実践しています。

また、コミュニティーは「植物も動物も私たち人間と同様に魂を宿し進化するために生きている」というダマヌールの哲学に基づき、多種多様な生命た

ちとの調和的な共存を実現するための共有空間でもあります。

ダマヌール社会の基本的なライフスタイルは、一人ひとりが隔離されたり引きこもることなく、毎日の生活の中で、仲間との関わりや共有を積極的に行うことで自分を変え続けることが基本です。

共有の場を広くとり、皆が顔を合わせて一緒に食事をしたり、話しあうことを大切にしています。周りの仲間たちがどのような状態にいるのかに注意を向けるために、バスやトイレ、ユーティリティは、あえて共有の形態をとっています。

建築家の小西先生には、この建物をデザインする際に、人々が交流し、生み出したエネルギーを留めるような形態にしてください、とお願いしました。

新館の完成によって、ダマヌールが提唱するこれらの人生哲学を実践できる場が日本にも実現しました。

この新館の完成に伴う活動は、私たちの新たな挑戦のスタートです。関わってくださった多くの方々に深く感謝するとともに、この地から世界に、そして宇宙に向けて、皆様とともに拡大していきたいと思っています。

